

RECNA 長崎被爆・戦後史研究会 公開・総括シンポジウム



2020年2/15 (土)

時間：13：30～16：30

場所：長崎大学文教キャンパス

教養教育講義棟A-13教室（環境科学部建物の1階）

※駐車場はありません。公共交通機関でお越しください。

核兵器廃絶を視野に入れた「原爆／被爆体験の継承」を考える際、そもそも「何を継承すべきか」が問われることは少ない。そこで、このシンポジウムでは、原爆被災が戦後の長崎において人々にどんな影響をもたらしたのかについて多角的に検証し、核兵器使用が社会に対してもたらす甚大な被害とそこからの歩みについて、被爆地・長崎から考えてみたい。

第1部 問題提起(80分)

長崎被爆・戦後史研究会の目的と課題

桐谷多恵子(RECNA客員研究員)

資料から見る「継承」—アーカイブズの観点から

四條知恵(長崎大学多文化社会学部客員研究員)

長崎における語り継ぎ実践と原爆体験の思想化

深谷直弘(福島大学うつくしまふくしま未来支援センター特任助教)

継承されていないものは何か—原爆被害者調査を中心として

根本雅也(明治学院大学国際平和研究所助手)

被爆体験を受け継ぐことと戦後史研究の意義

桐谷多恵子

<休憩 10分>

第2部 パネル討論(80分)

コメント・論点整理

新木武志(長崎工業高校教員)、富永佐登美(元長崎大学院生)

第1部登壇者からの応答と討論

会場からの質疑応答

司会：山口響(RECNA客員研究員)

まとめ(10分)

「核遺産・核政策研究会」の提案

鈴木達治郎(RECNA副センター長)

入場無料
事前申込不要

私たちは何を継承すべきか
長崎の被爆・戦後史研究から見えてくるもの

お問い合わせ

長崎大学核兵器廃絶研究センター(RECNA)

TEL: 095-819-2164

E-mail: recna_jimu@ml.nagasaki-u.ac.jp

登壇者プロフィール

四條知恵

かつて広島平和記念資料館学芸員として勤務。九州大学大学院比較社会文化学府博士課程修了。博士（比較社会文化）。日本学術振興会特別研究員を経て、現在、長崎大学多文化社会学部客員研究員。専門は日本近現代史、歴史社会学。著書に『浦上の原爆の語り——永井隆からローマ教皇へ』（2015）、論文に「散逸する長崎の歴史資料——公文書館設立への提言」（2019）などがある。

深谷直弘

法政大学大学院社会学研究科社会学専攻博士後期課程修了。博士（社会学）。2017年4月より福島大学うつくしまふくしま未来支援センター特任助教。専門は文化社会学、記憶の社会学。著書に『原爆の記憶を継承する実践——長崎の被爆遺構保存と平和活動の社会的考察』（2018）がある。

根本雅也

一橋大学大学院社会学研究科博士課程修了。博士（社会学）。日本学術振興会特別研究員（PD）を経て、現在、明治学院大学国際平和研究所助手。専門は歴史社会学、社会調査論。主著に『ヒロシマ・パラドクス——戦後日本の反核と人道意識』（2018、第7回日本平和学会平和研究奨励賞受賞）、共編著に『原爆をまなざす人びと——広島平和記念公園八月六日のビジュアル・エスノグラフィ』（2018）がある。

桐谷多恵子

法政大学大学院国際文化研究科博士後期課程修了。博士（国際文化）。日本学術振興会特別研究員、法政大学大学院の非常勤講師を経て、2010年4月より2016年3月まで広島市立大学広島平和研究所の講師として勤務。2016年4月よりRECNA客員研究員。専門は、広島・長崎の被爆問題と戦後復興史。論文に「今日的な課題としての広島・長崎——被爆問題の再検討」（2013）、「長崎の原爆被爆に関する研究史を巡る一考察——占領下の『復興』の問題に寄せて」（2013）などがある。

新木武志

長崎工業高校教員。主要論文に「なぜ平和を訴えるのか——戦災復興事業をめぐる長崎政財界の動向と原爆被災者」葉柳和則編著『長崎——記憶の風景とその表象』（晃洋書房、2017）など。

冨永佐登美

元長崎大学大学院生。主要論文に「観光都市における被爆の表象——地図に描かれる長崎を例として」葉柳編、前掲書、「非体験者による被爆をめぐる語りの課題と可能性——平和案内人の実践を手がかりに」『文化環境研究』6号（2012）など。